

iTRONの将来と展望

国際化とプラットフォーム化

EnThink, Inc
Executive Director
Nalin Advani
nalin@enthink.com

iTRONはなぜ日本で成功したのか？ **EnThink**

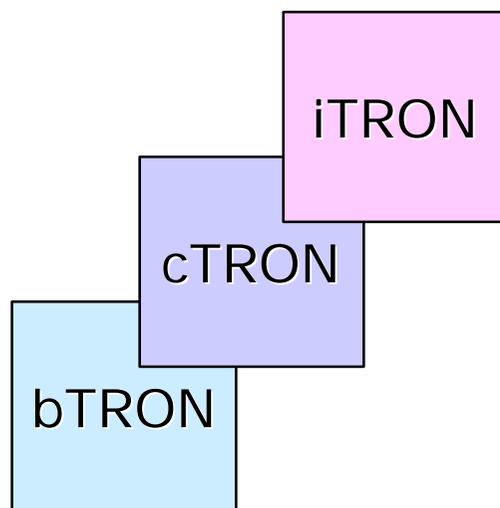
- 日本で作ったものだから
 - ドキュメント、ソース、サポート、等が全て日本ベース
- 安いから
 - マルチベンダー
- マルチ・アーキテクチャーだから
 - どのチップにも載っている
- カスタマイズができるから
 - オープン・スペック

- みんなで造る
 - 「カーネル / OS」から「プラットフォームOS」へ移行
- 国際化へ
 - マルチベンダー・マルチチップ・マルチツール
 - マルチカルチャー
- 産業用OSから脱却
 - 組み込み型「インターネットプラットフォーム」として
 - **iTRON = 「intemeTRON」**

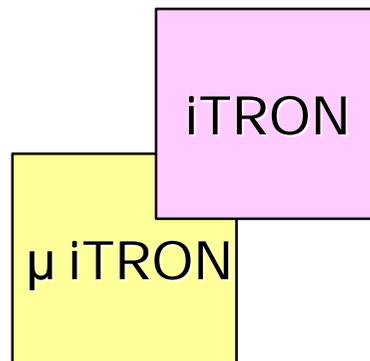
iTRONはもう産業用ではない

スケーラビリティ
が要求される

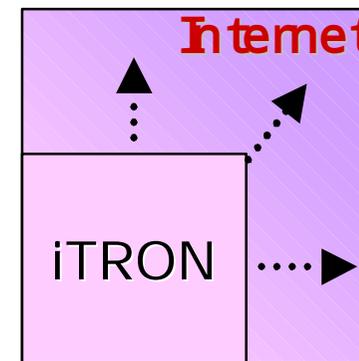
「プラットフォーム化」
でインターネット機能
が出始める



1985~

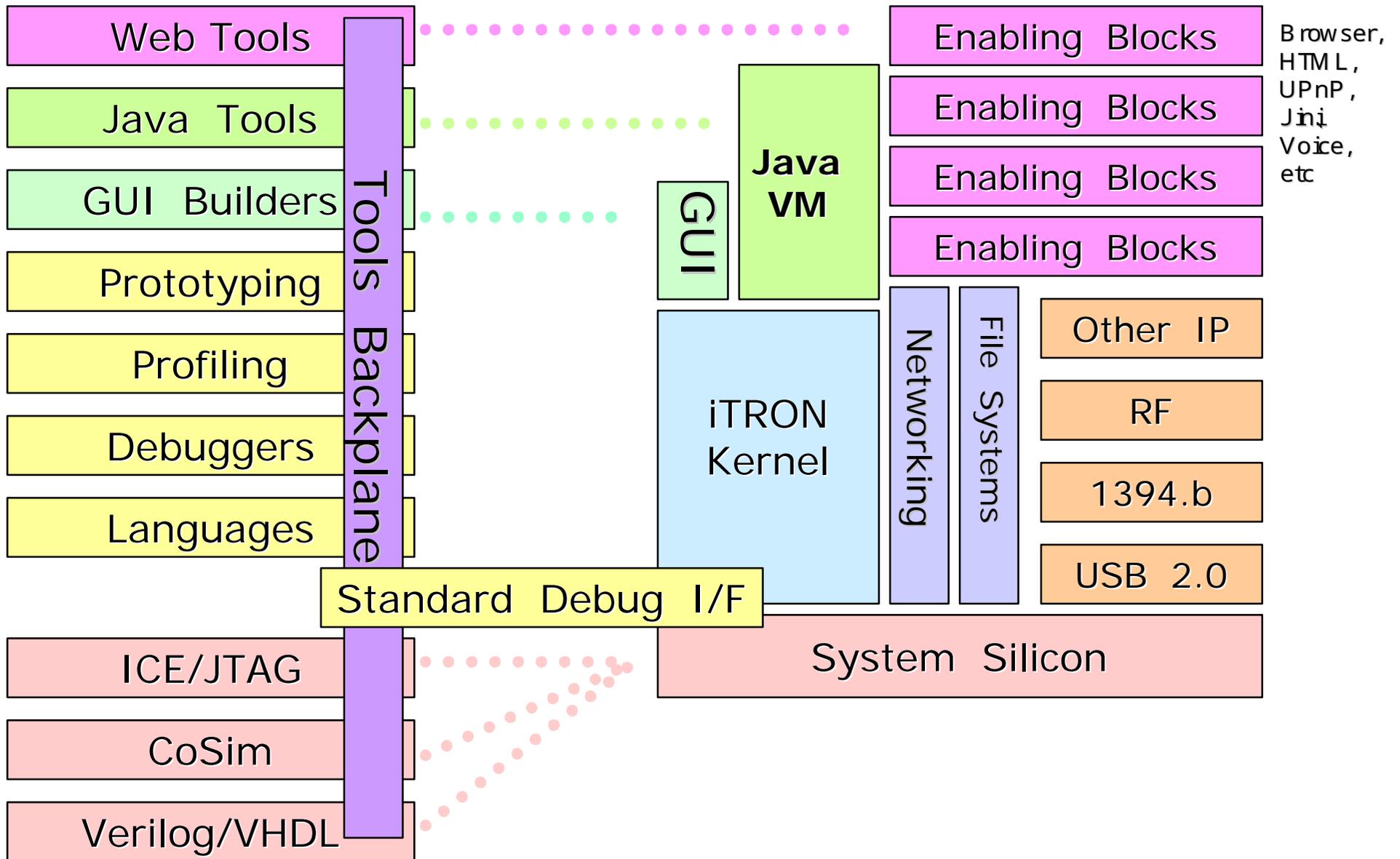


1990~



1995~

もし、自分の理想の 2000年版 iTRON だったら...

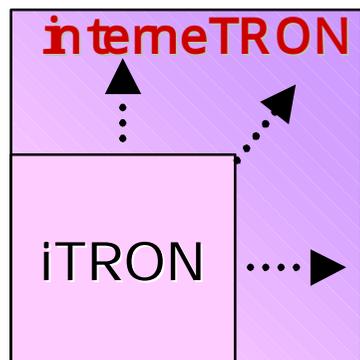


未来は「InterneTRON」から始まる

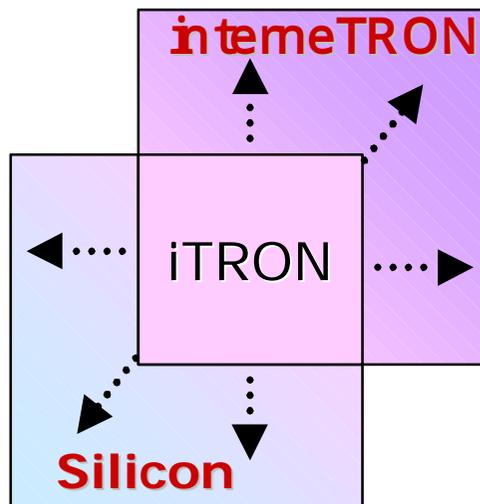
Java, Havi, UPnP,
等のインターネット
機能が出揃い、
「InterneTRON」誕生

チップ設計の進化により
iTRONの基本機能
が「シリコン化」して行く

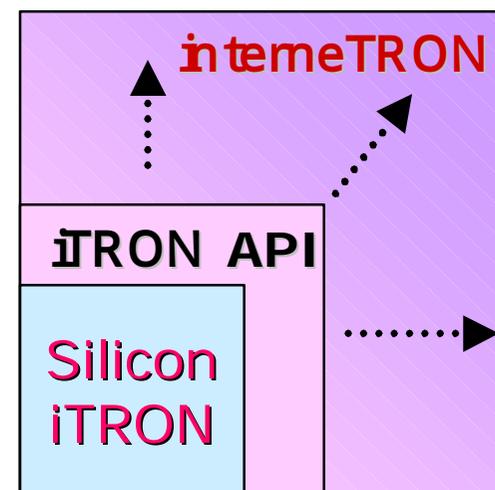
一つのIPブロックとして、
「シリコンiTRON」がチップ
設計時から組み込まれる。



2000~



2005~



2010~

- まず、ビジネスモデルから考え直す
 - OpenS pedはいいが、FSF的の管理が必要
 - RedH aのような仕組みが多くあればGood!
- ツールインターフェースの統一
 - ツールのマルチベンダー化が実現する
 - 海外ツールベンダーが対応しやすくなる
- テリトリー戦略
 - 北米 (通信インフラ) 北欧 (端末) インド (開発)
 - 海外の大学戦略

- DSP
 - dTRON?
- コンポーネントの標準化
 - ネットワーク、ファイルシステム
 - ドライバー・インターフェース
- 上流 API
 - iTRONカーネル上にWin32、Linux など?
- シリコン iTRONの開発環境
 - 日本のチップメーカーならできる!